

アカデミックスキルズ

概要

短期大学で学ぶために必要なアカデミックスキルと基礎力の強化を目的とする。全員で学ぶ講義形式、輪講式、各顧問別の授業、体験型ワークショップ、プレゼンテーションなどの組み合わせによって、総合的な「学ぶ力」を養成する。

| | |
|---------|-----------------|
| 担当教員 | 山野実他キャリア教養学科全教員 |
| 授業形態 | 講義・演習 |
| 学期 | 通年 |
| 必修・選択の別 | 必修 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 45分×16回、90分×8回 |
| 単位数 | 2 |

目標

本科目で学んだことを、常に他科目の学習やさまざまな場面で応用し、自らの「学びスタイル」を模索し、構築できるようになること。

各回の内容

1. オリエンテーション ～アカデミックスキルズ前期の概要～
2. ノートテイキングのしかた(1) ノートテイキングの意義 ～ノートは何のためにあるか～
3. ノートテイキングのしかた(2) わたしにとってのノートテイキング ～個人プレゼンテーション～
4. レジユメの活用法 ～レジユメとは何か～
5. レジユメを作ってみよう
6. 効果的なレジユメ ～個人プレゼンテーション～
7. 輪講式授業(第1週目) <インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方>
8. 輪講式授業(第2週目) <インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方>
9. 輪講式授業(第3週目) <インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方>
10. 輪講式授業(第4週目) <インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方>
11. 輪講式授業(第5週目) <インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方>
12. 輪講式授業(第6週目) <インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方>
13. 輪講式授業(第7週目) <インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方>
14. パワーポイント(PPT)活用法【初級編】
15. PPTを用いたプレゼンテーション ～前期アカスキの学びを通して得た教訓～
16. オリエンテーション ～アカデミックスキルズ後期の概要～:クリッカーの利用
17. ビブリオバトル 顧問別予選
18. ビブリオバトル CE1決戦:クリッカーの利用
19. 読解力養成(1)
20. 読解力養成(2)
21. 文章力養成(1)
22. 文章力養成(2)
23. プレゼンテーショントレーニング(1)～パワーポイント(PPT)活用法【中級編】～
24. プレゼンテーショントレーニング(2)～個人プレゼンテーション 「私の学術的興味&関心」～
25. 特別研究オリエンテーション
26. 研究室訪問(1)
27. 研究室訪問(2)
28. アカデミックスキルズの総括 ～特別研究に向けて～
29. 特別研究事前指導(1) 研究目標の明確化
30. 特別研究事前指導(2) 事前学修について

アカデミックスキルズ

準備学習（予習・復習等）

事前に指示されたことを予習しておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

出席状況および授業への参加態度30%
ふりかえりシート70%

教科書

特になし。

参考文献

必要があればその都度、紹介する。

労働法制と人権

概要

短期大学を卒業後、多くの学生が就職をする中、労働の現場ではブラック企業やハラスメント等、労働問題が後を絶たない。そこで、本授業では、就職後にトラブルに巻き込まれないように、労働に関する基本的な法知識と関連するケースを講義していく。また、労働問題を理解する前提となる基本的人権や契約に関する基礎知識も講義する。更に、事例を使って労働問題に向き合うグループワークを実施する等、能動的な学びを実践する。グループワークでは、意見をまとめ、報告書を作成する等の課題を実施する。また、講義で学んだ知識を定着させるため確認テストも実施する。

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 元井 貴子 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学期 | 前期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

- ・労働法の基本的な知識を習得することができるようになる
- ・基本的人権を理解することができるようになる
- ・労働問題に対し学んだ知識を使うことができるようになる
- ・現代の労働問題に対する具体的なイメージが持てると共に、その問題の争点や様々な考え方を理解し、自分の意見を持つことができるようになる

各回の内容

1. 働くことに関する法律について
2. 基本的人権と労働 ~労働者の権利と企業の権利~
3. 基本的人権と労働 ~人権への制約が許されない場合~
4. 労働契約~企業と労働者が負う義務~
5. 就業規則に関する問題
6. 時間外労働に関する問題
7. 過労死について
8. パワー・ハラスメント ~パワー・ハラスメントとは~
9. パワー・ハラスメント ~事例から考える~
10. 業務命令と人権
11. 採用・内定・試用期間に関する問題
12. 人事異動に関する問題
13. 労働基準監督署の役割
14. 労働条件の変更に関する問題
15. 労働契約の終了に関する問題
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につき資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- ・筆記試験40%、確認テスト30%、講義への貢献度（グループディスカッション実施報告書等）15%、リアクションペーパー15%
- （確認テストの解答・解説は解答用紙回収後に実施する）
- （試験の解答・解説は掲示する。）

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

労働法制と人権

概要

女性や性的少数者、非正規労働者等は労働現場において基本的人権を侵害されてしまう場合が少なくない。そこで、本授業では、前期で学んだ知識を前提にして、グループ研究を行う。本講義のグループ研究はテーマの設定から調査、資料作成、発表までグループ内で話し合い、分担をする等、他者との協同関係をスムーズに進めながら、自身の意見も言える力を養う。

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 元井 貴子 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学期 | 後期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

- ・労働問題に対し学んだ知識を使うことができるようになる
- ・現代の労働問題につき、国内・県内での問題点や様々な考え方、他県や外国の状況を調査研究し、自分の意見を持つことができるようになる
- ・研究成果を資料にまとめた上で、プレゼンテーションできるようになる

各回の内容

| |
|----------------------------|
| 1. 労働法と人権法理・契約法理について |
| 2. 労働基準法について |
| 3. 福島県内の労働環境について |
| 4. 女性の労働をサポートする行政の取り組みについて |
| 5. グループ研究 研究テーマ検討 |
| 6. グループ研究 インターネットでの調査研究 |
| 7. グループ研究 図書館での調査研究 |
| 8. グループ研究 研究資料作成 |
| 9. グループ研究 研究経過報告会 |
| 10. グループ研究 調査・研究資料改訂 |
| 11. グループ研究 研究発表準備 |
| 12. グループ研究 研究発表会（予選） |
| 13. グループ研究 研究発表会（予選） |
| 14. グループ研究 研究発表会（本選） |

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につき資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

グループ研究及び発表 60%、課題レポート 30%、リアクションペーパー 10%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

経営学基礎

概要

企業経営に関する理論を事例等を通して体系的に学ぶ。

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 山野実 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学期 | 後期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

企業行動の背景にある企業の論理を理解し、現実の企業の様々な活動をより深く理解する力を身につける。

各回の内容

1. 経営学とは
2. マーケティング(1)
3. マーケティング(2)
4. マーケティング(3)
5. マーケティング(4)
6. ケース・スタディ(1)
7. ケース・スタディ(2)
8. 経営戦略(1)
9. 経営戦略(2)
10. 経営戦略(3)
11. ケース・スタディ(3)
12. 組織のマネジメント(1)
13. 組織のマネジメント(2)
14. 組織のマネジメント(3)
15. ケース・スタディ(4)
16. 試験

準備学習(予習・復習等)

各回の授業の最後に予習内容を示す。

授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、確認テストを3回実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験70%、確認テスト30%、いずれも採点后に返却する

教科書

必要に応じ、レジュメや資料を配布する。

参考文献

伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版社
沼上幹(2008)『わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣

地域形成論

概要

「地域」を形成している要素は何か。そもそも「地域」や「コミュニティ」とは何かを探る。

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 三瓶千香子 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学期 | 前期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

「地域の活性化」などの言葉を簡単に聞き流すことなく、情報を自分なりにキャッチでき、かつ分析しながら、新たな地域を形成していくための提案ができるようになる。

各回の内容

1. 「地域」「コミュニティ」の定義
2. なぜ今「地域形成」なのか
3. 成熟社会とその課題
4. 自然発生的地縁団体史
5. ボランティアとは何か
6. 現代におけるNPOの存在意義・現状・課題
7. 地域史の学び方・地域の魅力の掘り出し方
8. 地域形成への提案（1）
9. 地域形成への提案（2）
10. 地域形成への提案（3）
11. 人をつなげる地域づくり演習（1）
12. 人をつなげる地域づくり演習（2）
13. 人をつなげる地域づくり演習（3）
14. 「らしさ」とは何か
15. まとめ：一歩踏み出す力を見つける
16. 最終論述考査

準備学習（予習・復習等）

地域づくりや復興に関するニュースや新聞記事、雑誌記事をできるだけ集めておく。またその記事に関して、自ら考えたことをまとめ、整理しておくこと。そのほか、授業中に指示されたことを調べる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

グループプレゼンテーション20%、振り返り用紙からみる理解度30%、最終論述考査50%

教科書

特になし

参考文献

- ・地域と連携する大学教育研究会(編さん)『地域に学ぶ、学生が変わる 大学と市民でつくる持続可能な社会』東京学芸大学出版会 2012年。
- ・眞鍋和博(著)、北九州市立大学(監修)、北九州大学『「自ら学ぶ大学」の秘密 地域課題にホンキで取り組む4年間(シリーズ北九大の挑戦)』九州大学出版会、2015年。

生涯学習概論

概要

学歴社会から学習社会に移行している昨今、何を学び、その学びをどのように生かすのかが問われている。「生涯学習」という言葉はようやく定着してきたが、その中身についてはほとんど語られない。この授業では、生涯学習とは個人レベルの学習から地域づくりまで幅広く、民間や行政がさまざまな努力をして初めて生涯学習社会が構築されていくということを学んでいく。

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 三瓶千香子 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学期 | 後期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

「ゆりかごから墓場まで」、自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が評価される社会において、個々人が自らの生きがいを見つけ、充実した人生を他者と共に学び合うことが生涯学習の主眼であることを理解できる。

各回の内容

1. 生涯学習の基本的な考え方
2. 生涯学習社会構築の必要性
3. 生涯学習社会構築への取り組み調査(1)
4. 生涯学習社会構築への取り組み調査(2)
5. 地域における社会教育・生涯学習施設(1)
6. 地域における社会教育・生涯学習施設(2)
7. 地域における社会教育・生涯学習施設(3)
8. 成年期の学習ニーズとボランティア
9. 団塊世代と生涯学習
10. 高齢者の生涯学習と実践活動
11. 大学拡張論
12. 生涯学習プログラミングの実践(1)
13. 生涯学習プログラミングの実践(2)
14. 生涯学習プログラミングの実践(3)
15. 知識基盤社会と将来の展望
16. 最終試験

準備学習(予習・復習等)

生涯学習・成人教育に関連するニュースに関心を持つ。グループワークによる生涯学習プログラム調査などに備える。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

振り返りシートの記述内容20% プレゼンテーション30%、グループワークへの姿勢20%、最終記述試験30%

教科書

香川正弘・鈴木真理編『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房(2008年)

参考文献

- ・E.ハミルトン『成人教育は社会を変える』玉川大学出版部、2003年。
- ・岩永雅也(編)『現代の生涯学習』放送大学教育振興会、2012年。
- ・出相泰裕『大学開放論 センター・オブ・コミュニティ(COC)としての大学』大学教育出版、2014年。
- ・上杉孝實・香川正弘・河村能夫(編)
- 『大学はコミュニティの知の拠点となるか:少子化・人口減少時代の生涯学習』ミネルヴァ書房、2016年。
- ・リンダグラットン・アンドリュー スコット(著)、池村千秋(訳)『LIFE SHIFT』東洋経済新報社、2016年。

キャリアマネジメント

概要

ライフキャリア、ワークキャリアを考えるために、まず自己との対話を行う。次に問題解決対応能力や職業興味を考えながら、1年次後期の履修計画を立てる。
2回目～6回目担当：後藤，7回目～9回目担当：山野，10回目～14回目担当：加藤

| | |
|---------|--------------|
| 担当教員 | 加藤竜哉・後藤真・山野実 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学期 | 前期 |
| 必修・選択の別 | 必修 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

- 1)自己の持つ長所や傾向を客観的に分析・理解した上で自律学習に積極的に取り組むことができる。
- 2)職業興味を深めることができる。
- 3)タイムマネジメントとスケジュール管理の具体的手法を身につける、必要な1年次後期からの履修計画を立てることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、各目標、他科目との関係について、卒業までに獲得すべき能力
2. 導入：構成的グループエンカウンター ～他者と関わるためのキッカケづくり～
3. 自己理解：自分を知り、自分を受けとめる
4. 相互理解：自分を伝えるためのコミュニケーションスキル
5. 帰属感：グループの中のわたし ～貢献し合うチームビルディング～
6. ワークショップまとめ：モノローグからダイアログへ
7. 自分の職業に対する興味を知る
8. 職業興味を深める
9. どんな資格、どんな学問
10. 上手な悩み方とは
11. 問題に対する対応を考える
12. 長期的な目標と短期的な目標設定
13. 計画力をつける、スケジュール演習（1）
14. スケジュール演習（2）
15. 進路決定と1年後半の履修計画：後期授業とのかかわりについて

準備学習（予習・復習等）

事前事後：

毎回の授業で課された課題をもとに授業を展開することになるので、指示された課題作成し、忘れずに持参すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- 1) 参加態度75%：毎回レビューシートに学習内容の気づきや振り返りを記入して提出(各回5点×15回)。
- 2) 課題レポート25%：レポート課題は授業時に紹介。各教員の評価値合計を平均して評価点を算出する。
素点合計 = 1) + (加藤、山野、後藤の各25点) ÷ 3

教科書

なし
適宜、プリント配布

参考文献

上田紀行『生きる意味』岩波新書
渡辺健介『世界一やさしい問題解決の授業』ダイヤモンド社

簿記入門

概要

簿記の基礎として、簿記の目的、企業で用いる複式簿記について学ぶ。
 企業における経営活動を簿記のルールに基づき、取引の仕分、勘定への転記、決算処理に至る手続きについて学ぶ。
 さらに、一定時点の財政状態を表す貸借対照表、一定期間の経営成績を表す損益計算書について学ぶ。

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 菅野 貴夫 |
| 授業形態 | 講義・演習 |
| 学期 | 後期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

企業における様々な経営活動を帳簿に記録・計算・整理する方法(技術)としての簿記の基礎(日商簿記3級程度)を理解する。
 さらに、簿記の目的である、企業における一定時点の財政状態や、一定期間の経営状態を明らかにすることについても理解する。

各回の内容

1. 簿記の基礎
2. 商品売買
3. 現金預金
4. 手形(約束手形)
5. 有価証券と固定資産
6. その他の取引
7. その他の取引
8. 帳簿
9. 帳簿
10. 試算表
11. 試算表
12. 伝票と仕訳日計表
13. 決算手続き
14. 決算手続き
15. 決算手続き ・演習
16. 試験

準備学習(予習・復習等)

予習(事前にテキストを1回以上読んでから講義に臨む)、復習(講義の復習として練習問題は2回以上行う)予習以上に復習に時間をかける。
 計算手段として電卓を準備する。(12桁表示、携帯電話・スマホ等は不可)

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験60%、授業の中で実施する小テスト30%、課題等10%

教科書

滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の教科書(日商簿記3級 商業簿記)』TAC出版
 ISBN978-4-8132-7485-8 定価本体1,000円<最新版>

参考文献

必要に応じて、授業で紹介する。

キャリア形成論

概要

1年生後期からスタートする就職活動や編入対策に向けて、将来を見通した選択ができるように、社会人とは何か、人生設計とは何か、自立のために必要なことは何か、今何をすべきかを考えていく。

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 三瓶千香子 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学期 | 前期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

一人一人が平等に与えられている24時間という「時間」を意識的に捉え、将来を見据えた計画の重要性が理解できること。計画を愚直に行動へ移そうという意識へ変換できること。これを本科目の目標にする。

各回の内容

1. イントロダクション
2. ライフキャリアとワークキャリア
3. 協働することとは
4. タイムマネジメント(1)～何が動きのムダをつくるか～
5. タイムマネジメント(2)～自分の動線を創る～
6. 手帳学～目標の可視化の重要性～
7. 社会人とは何か(1)～チームで定義探し～
8. 社会人とは何か(2)～チームでPPTづくり～
9. 社会人とは何か(3)～プレゼンテーション1～
10. 社会人とは何か(4)～プレゼンテーション2～
11. 藤本篤志『社畜のススメ』を読み解く
12. 滝本哲史『僕は君たちに武器を配りたい』を読み解く
13. 「自分ノート」と“武器”探し
14. 21世紀に求められる能力
15. 総括
16. 論述テスト

準備学習(予習・復習等)

「働き方」「女性の活躍推進」など、現代社会でテーマになっている課題について常に調べておくこと。また、自らのライフキャリアデザインを見える化できるように努力すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

プレゼンテーション態度30%、論述テスト50%、振り返りシートにおける理解度20%

教科書

特になし

参考文献

- ・児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか? 生き抜くために知っておくべきこと』日本図書センター、2011年。
- ・高塚 苑美『超一流の手帳はなぜ空白が多いのか?』SBクリエイティブ、2017年。
- ・藤原 和博『藤原先生、これからの働き方について教えてください。100万人に1人の存在になる21世紀の働き方』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2015年。
- ・リンダグラットン・アンドリュースコット(著)、池村 千秋(訳)『LIFE SHIFT』東洋経済新報社、2016年。
- ・吉松隆『ドラッカーの時間管理術』アチーブメント出版、2017年。

キャリア形成演習

概要

- ・インターンシップを実施する前の心構えと、目的を明確にし、自身の目標を設定する。最終日にグループプレゼンテーションを行う。
- ・インターンシップを履修することが履修条件。
- ・2日間の集中科目なので、1日休むと単位を取得できない。
- ・社会人として求められること（時間や期限等）については厳守を求める

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 元井貴子 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学期 | 前期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 集中（2日間） |
| 単位数 | 1 |

目標

インターンシップのための事前学習。演習によって、自己を知り、自己を表現できる。
 インターンシップで具体的に学びたいこと得たいことを明確にできる。
 グループ発表に向けてインターンシップの目的や目標を設定し、プレゼンテーションできる。
 社会人として求められること（時間や期限等）が厳守できる

各回の内容

1. オリエンテーション
2. OP1：グループを作る メンバーを理解 グループ名を付ける
3. OP2：「インターンシップって何？（1）」先輩からの情報収集するための準備
4. OP3：「インターンシップって何？（2）」先輩にインタビューし、グループでまとめる
5. 講評・前半のまとめ
6. OP4：「インターンシップで得たいこと学びたいこと」をグループでまとめる
7. OP5：「インターンシップで得たいこと学びたいこと」発表
8. OP6：インターンシップに向けてのアクションプラン作成
9. OP7：アクションプランの発表グループ発表
10. インターンシップ事前研修の総まとめ

準備学習（予習・復習等）

インターンシップで何を体験したいのか・何を学びたいのか等につき考えておくこと

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

講義への貢献度・姿勢20%、発表と評価40%、課題提出40%

教科書

なし

参考文献

その都度、紹介する。

キャリア形成演習

概要

インターンシップの事後学習。
インターンシップで得たこと学んだことを整理し、相互に共有し深めていく。学んだことを資料にまとめ、個人でのポスターセッションを行う。

【注意1】2日間の集中講義のため1日欠席すると、単位を取得できなくなる

【注意2】インターンシップを履修していることが履修条件

【注意3】社会人として求められること（時間や期限等）については厳守を求める

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 元井貴子 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学期 | 後期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 集中（2日間） |
| 単位数 | 1 |

目標

インターンシップで得たことを自ら整理することができる。
インターンシップで学んだことを個人発表することができる。
社会人として求められること（時間や期限等）を厳守できる。

各回の内容

1. インターンシップでの経験をシェアする
2. 他者の話を踏まえ、自己のインターンシップを振り返る
3. 自己評価と企業評価の比較から自己の改善点を知る
4. ポスターセッションの準備（テーマ「インターンシップで学んだことをどう生かすのか」）
5. ポスターセッションの準備（テーマ「インターンシップで学んだことをどう生かすのか」）
6. ポスターセッション（全員発表）
7. ポスターセッション（相互評価）
8. まとめ

準備学習（予習・復習等）

日報、報告書などインターンシップ関連資料を読み返しておくこと。
インターンシップに関する振り返りをしておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

講義への貢献度・姿勢20% 発表及び発表資料30%、課題レポート40%

教科書

なし

参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

プランニング入門

概要

この授業では、一つのアイデアを放射線状に広げる思考力の向上を根幹に置く。いわゆる「企画力」である。何らかのたたき台をいかにアレンジできるか、誰かに何かを頼まれたとき、自主的に斬新なアイデアを付け加えて提案できるかということは、将来非常に重視される点である。このような力の礎を醸成することを目的として授業を行う。

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 三瓶千香子 |
| 授業形態 | 講義・演習 |
| 学期 | 後期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

事業やイベントを企画したり複数の事業などをつなげ、コンサルタントを行うプランナーという仕事を、理論と演習を通して理解することができる。

各回の内容

1. 本授業の目的と詳細
2. 内容の説明プランナーとは何か。
3. 代表的なプランナー例
4. なぜつまらない企画ができるか。
5. マネジメント論
6. ラフプランニング演習 - 視点 -
7. ラフプランニング演習 - 視野 -
8. ラフプランニング演習 - ニーズ -
9. プランプレゼンテーション比較
10. プラン演習(1) - 日常のタスクプランニング
11. プラン演習(2) - ライフプランニング
12. プラン演習(3) - ソーシャルプランニング
13. プランプレゼンテーション統合
14. 逆算思考とタイムマネジメント
15. 求められている能力とは

準備学習（予習・復習等）

週刊誌、テレビ、地域活性企画にアンテナを立てておく。また地域づくりや地域連携の重要性が分かる著書、記事などに目を通しておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

フィードバックシート提出と内容50%、チームプレゼンテーション30%、最終論述試験20%

教科書

なし

参考文献

- ・ジェームス W.ヤング(著),竹内 均(解説), 今井 茂雄(翻)『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス、1988年。
- ・竹島慎一郎『「おでん屋」で企画書の書き方を学ぶ』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2012年。
- ・櫻田潤『図で考える。シンプルになる。』ダイヤモンド社、2017年。

コミュニケーション論

概要

近年、多様なコミュニケーションツールが発達するにしたい、適切なコミュニケーション・スキルを身につけることが「社会性」としてますます重要になっている。しかし、ツールがいかに多様化しようとも、言葉の使い方やふるまい方のルールはほとんど変わらない。その前提に立ちつつ、心理学や社会学の理論に基づいた「聴いて、話す」ための基本トレーニングを行う。

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 築田美抄 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学期 | 後期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

自身についての理解を深めるとともに、他者を尊重する姿勢を身につける
 状況を理解し、その場における「適切なコミュニケーション」を選択する力をつける
 社会におけるコミュニケーション・ルールの概要を知り、責任感や自信を養う

各回の内容

1. 「コミュニケーション」とは
2. 「コミュニケーション」とは
3. 「コミュニケーション」とは
4. コミュニケーション・トレーニングの前に（エゴグラム）
5. コミュニケーション・トレーニング（交流分析1）
6. コミュニケーション・トレーニング（交流分析2）
7. コミュニケーション・トレーニング（交流分析3）
8. コミュニケーション・トレーニング（実践演習1）
9. コミュニケーション・トレーニング（実践演習2：発表）
10. 難しいコミュニケーション－「断る」
11. 難しいコミュニケーション－「断る」
12. 難しいコミュニケーション－「言いにくいこと」
13. 難しいコミュニケーション－「言いにくいこと」
14. 実践トレーニングスペシャルバージョン
15. 実践トレーニングスペシャルバージョン

準備学習（予習・復習等）

予習は特に必要としないが、授業毎に、当日の授業のテーマに関して、復習の作業内容を指示する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート 80%

ふり返し（個別発表） 20%

レポートの返却については掲示で連絡する。

教科書

使用しない

参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

TOEIC演習

概要

This class will focus on the listening section of the TOEIC test. Each week will cover step-by-step skills development. Mini-tests will be given after each part. This course will be conducted all in English.

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 藤平明彦アンドリュー |
| 授業形態 | 演習 |
| 学期 | 後期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

Students will understand the parts of the TOEIC listening test.
Learners will gain knowledge of basic listening techniques.
Students will improve individual test scores (with a target of at least 500).

各回の内容

1. Introduction to Accents / TOEIC Listening Test (1)
2. Part 1 (Introduction)
3. Part 1 (Photographs)
4. Part 1 (Photographs)
5. Part 1 (Review) / Part 2 (Introduction)
6. Part 2 (Question-Response)
7. Part 2 (Question-Response)
8. Part 2 (Review) / Part 3 (Introduction)
9. Part 3 (Short Conversations)
10. Part 3 (Short Conversations)
11. Part 3 (Review) / Part 4 (Introduction)
12. Part 4 (Short Talks)
13. Part 4 (Short Talks)
14. Part 4 (Review)
15. TOEIC Listening Test (2)

準備学習（予習・復習等）

- （予習） Do the weekly online listening activities and complete the individual e-learning problems.
（復習） Review the answers to the listening and the in-class activities.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Listening Test Improvement 30%,
Listening Homework 20%, E-learning 20%
Review Tests 20%, Participation 10%

教科書

「Pass the TOEIC Test (Introductory Course)」 First Press ELT

参考文献

リーディングスキルズ

概要

This is a basic reading course of 2,000 words with each unit having a passage of about 300 words. Each topic will include activities about society and culture. This class will be conducted in all English.

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 藤平明彦アンドリュー |
| 授業形態 | 演習 |
| 学期 | 前期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

Students will improve their reading ability and comprehension.
Learners will practice their pronunciation with each other.
Extensive reading material will be used for reading practice.

各回の内容

1. Course introduction & Unit 1 introduction
2. Unit 1 review & Unit 2 introduction
3. Unit 2 review & Unit 3 introduction
4. Unit 3 review & Unit 4 introduction
5. Unit 4 review & Unit 6 introduction
6. Unit 6 review & Unit 8 introduction
7. Unit 8 review & midterm discussion
8. Midterm Review
9. Midterm follow-up & Unit 9 introduction
10. Unit 9 review & Unit 11 introduction
11. Unit 11 review & Unit 12 introduction
12. Unit 12 review & Unit 13 introduction
13. Unit 13 review & Unit 15 introduction
14. Unit 15 review & final discussion
15. Final Review
16. Final Class

準備学習（予習・復習等）

- （予習） Study the necessary vocabulary words for each unit and listen to the audio CD to practice pronunciation for in-class reading.
（復習） Complete the comprehension questions for each reading and review the answers to the in-class activity.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Midterm Review 20%, Final Review 20%,
Vocabulary Quizzes 15%, Textbook Homework 15%,
Extensive Reading 20%, Participation 10%

教科書

『Reading Stream: Elementary 英語リーディングへの道：初級編』金星堂

参考文献

リーディングスキルズ

概要

This is a continuation of Reading Skills I. This is an intermediate reading course of 3,000 words with each unit having a passage of about 400 words. Each topic will include activities about society and culture. This class will be conducted in all English.

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 藤平明彦アンドリュー |
| 授業形態 | 演習 |
| 学期 | 後期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

Students will improve their reading ability and comprehension.
Learners will practice their pronunciation with each other.
Students will use teamwork to complete the in-class group work.
Learners will give their first in-class oral presentation.

各回の内容

1. Course introduction & Unit 1 introduction
2. Unit 1 review & Unit 2 introduction
3. Unit 2 review & Unit 3 introduction
4. Unit 3 review & Unit 4 introduction
5. Unit 4 review & Unit 5 introduction
6. Unit 5 review & Midterm discussion
7. Midterm Review
8. Midterm follow-up & Unit 6 introduction
9. Unit 6 review & Unit 7 introduction
10. Unit 7 review & Unit 9 introduction
11. Unit 9 review & Unit 10 introduction
12. Unit 10 review & Unit 11 introduction
13. Unit 11 review & Final discussion
14. Final Review
15. Final class & Book reports

準備学習（予習・復習等）

- （予習） Study the necessary vocabulary words for each unit and listen to the audio CD to practice pronunciation for in-class reading.
（復習） Complete the comprehension questions for each reading and review the answers to the in-class activity.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Midterm Review 25%, Final Review 25%,
Vocabulary Quizzes 15%, Textbook Homework 15%,
Book Report 10%, Participation 10%

教科書

『Reading Stream: Pre-Intermediate 英語リーディングへの道：準中級編』金星堂

参考文献

北米の歴史と文化

概要

| | |
|---------|--------------|
| 担当教員 | ウィリアム マクマイケル |
| 授業形態 | 講義 |
| 学期 | 前期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

日本から多くの旅行者や留学生がカナダを訪れるようになってきているにもかかわらず、カナダという国について日本人が十分な理解をしているかと言えば、そうとは言い難い。そこで、この授業においてはカナダがどのような歴史を経て形成され、発展してきたのか、さらにまた現代カナダはどのような社会・政治・教育・経済・文化によって構成されているのかを、最新の事柄を中心に考察をしていきたい。また、授業の中で、随時「多文化共生大国」であるカナダのダイバーシティ教育や思想から学べる異文化適応のコツや、グローバルマインドの形成など、将来海外で活躍する為に必要なスキルについても参加型学習を通して学ぶ。

目標

日本から多くの旅行者や留学生がカナダを訪れるようになってきているにもかかわらず、カナダという国について日本人が十分な理解をしているかと言えば、そうとは言い難い。そこで、この授業においてはカナダがどのような歴史を経て形成され、発展してきたのか、さらにまた現代カナダはどのような社会・政治・教育・経済・文化によって構成されているのかを、最新の事柄を中心に考察をしていきたい。また、授業の中で、随時「多文化共生大国」であるカナダのダイバーシティ教育や思想から学べる異文化適応のコツや、グローバルマインドの形成など、将来海外で活躍する為に必要なスキルについても参加型学習を通して学ぶ。

各回の内容

| | |
|-----|----------------------------------|
| 1. | イントロダクション・導入「カナダのイメージと実態」 |
| 2. | 多文化共生ってなんだろう？カナダから学ぶグローバル時代のメリット |
| 3. | カナダの歴史 先住民から植民地時代 |
| 4. | カナダの歴史 独立から世界大戦後の社会変革 |
| 5. | カナダの歴史 現代カナダ社会の形成からトルドー政権誕生まで |
| 6. | 小テスト |
| 7. | カナダの政治 政治構造の仕組みと日本との違い |
| 8. | カナダの政治 アメリカとの外交とPKO |
| 9. | カナダの文化 民族のモザイクがもたらす物 |
| 10. | カナダの文化 赤毛のアンからシルクドソレイユまで |
| 11. | カナダの文化 ホッケーから考察するナショナルアイデンティティー |
| 12. | カナダの経済 日加経済交流の歴史と課題 |
| 13. | カナダの教育 メディアリテレシーなど、特徴的な教育政策 |
| 14. | 現代カナダの課題 移民とケベック問題 |
| 15. | まとめ カナダの歴史と文化から何を学べるのか |
| 16. | 試験 |

準備学習（予習・復習等）

本授業は原則参加型学習形態で行われる。そのため、授業の終わりに課される事前リーディング資料やビデオ視聴は、必ず授業前に行ってくることを求められる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験 小テスト20%、期末試験40%

試験以外 参加態度（コミュニケーション・ペーパーの提出、グループワークでの発言）40%

教科書

毎回プリントを配布する

参考文献

飯野 正子編著、竹中 豊編著『現代カナダを知るための57章 エリアスタディーズ』明石書店、2013年

観光英語

概要

観光英語検定とは国際人としての英語力を身につけることを目的とし、外国人とのコミュニケーション力を観光の分野を通してその運用能力を計るものである。約3,000語の語彙力・適切な文法・構文の知識が必要とされ、実用英語検定3級に相当する。ここでは旅行者として、また観光業で用いられる一般的な会話表現及び専門用語を学び、観光英語検定3級取得を目指す。英検3級以上又は英語 単位取得者が望ましい。

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 佐藤純子 野崎佐知 |
| 授業形態 | 講義・演習 |
| 学期 | 後期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

予約関連業務、ホテル関連業務、出入国に関する手続き、機内放送等のアナウンス、食事、通貨、交通機関等、観光・旅行業に必要となる専門的な単語および英語による日常会話ができる。リスニングやロールプレイングを通して実際の場面を想定し、英語でのコミュニケーションができる。観光に必須の文化（国内外・異文化）、地理、歴史の知識を深める。

各回の内容

1. レベルチェックテスト（観光英語検定過去問題）part 1、 オリエンテーション
2. レベルチェックテスト（観光英語検定過去問題）part 2
3. Travel
4. Jobs and People
5. Getting on the Plane
6. At the Immigration and Customs
7. At the Airport
8. Hotel (Accommodations)
9. Review
10. Restaurant (Breakfast and Fast Food)
11. Sightseeing
12. Shopping
13. Transportation
14. Problems and complains
15. 課題発表、まとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

テキストを予習し、新出単語及び表現を確認しておく。ユニット毎の単語テストに備え、継続的に学習する。リーディング問題と講義で指示がある部分については自己学習とし、模範解答で知識を確認する。英作文の添削を希望する場合は随時提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

単語テスト20%、中間確認テスト30%、学期末テスト30%、課題20%

教科書

全国語学ビジネス観光教育協会・観光英検センター編『ENGLISH FOR TOURISM Basic』三修社

参考文献

その都度授業で紹介する。

英語演習 (Basic)

概要

英語初級学習者を対象に、様々な日常の場面で必要となる会話表現について学習することで、簡単な会話を続けられるようになることを目的とする。
また、自己自身のことや身の回りのことについて理解し、表現できる力を養成していく。

| | |
|---------|---------------|
| 担当教員 | 高橋未希 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学期 | 後期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 時間数 90分 × 15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

英語を理解する上で必要になる会話文や語彙力を養成し、定着させる。
会話の中で必要な言い回しについて理解し、実際に運用できるようにする。
自己について述べる表現力を身につけ、運用できるようにする。

各回の内容

1. Introduction Lesson1・2・3 (入門)
2. Lesson1・2・3 (応用)
3. Lesson1・2・3 (発展)
4. Lesson4・5・6・7 (入門)
5. Lesson4・5・6・7 (応用)
6. Lesson4・5・6・7 (発展)
7. Lesson 1～7 総括
8. まとめ
9. Lesson 8・9・10・11 (入門)
10. Lesson 8・9・10・11 (応用)
11. Lesson 8・9・10・11 (発展)
12. Lesson12・13・14・15
13. Lesson12・13・14・15
14. Lesson12・13・14・15
15. Lesson8-15総括
16. まとめ

準備学習 (予習・復習等)

毎週課される宿題を終わらせておくこと。
小テスト対策のために各自準備に励むこと

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Paper Test (試験) 50%、
Mini test (小テスト) 30%、
Class Participation (参加態度/課題遂行度) 20%

教科書

"Keep Talking"(桐原書店)

参考文献

必要に応じて指示する。

キャリア教養特講

概要

This is a class for students who would like to write essays and reports in English. Writing assignments will review skills learned online. Reading comprehension will also be checked through weekly homework assignments. Listening will be done in-class through Dictogloss activities. This class will be conducted all in English.

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 藤平明彦アンドリュー |
| 授業形態 | 演習 |
| 学期 | 前期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分 x 2 |
| 単位数 | 2 |

目標

Students will learn the skills needed to write multi-page English papers. Learners will improve their reading comprehension and listening skills. Students will increase their creativity by being active writers.

各回の内容

1. Course introduction
2. A Restaurant for Change
3. Computer Beats Champs
4. Want to Study Abroad?
5. A Student Budget
6. Cell Phone Etiquette
7. The Olympic Flame
8. Midterm Review
9. The World's Oldest Universities
10. Which English Will We Speak?
11. How Do You Celebrate?
12. The Age of Adulthood
13. Are you an Ophiuchus?
14. A Japanese Folktale
15. Final Review
16. Final Discussion

準備学習（予習・復習等）

（予習） Watch the online lesson to acquire necessary skills, read the text and answer the comprehension questions, write an essay on the given topic and bring it to class.

（復習） Read classmates' comments and teacher's corrections on the essay and review the answers to the text questions.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Weekly writing assignments 30%,
Midterm Review 20%, Final Review 20%,
Textbook Homework 20%, Participation 10%

教科書

「Active Skills for Reading 1」 Cengage Learning

参考文献

キャリア教養特講

概要

ファイナンシャル・プランニング（人生設計に基づいて資金計画を立てること）に関する基礎知識を学ぶ。

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 山野実 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学期 | 前期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

ファイナンシャル・プランニング技能検定試験（3級）の勉強を開始するのに必要な基礎知識の修得を目標とする。

各回の内容

1. ファイナンシャル・プランニングとは
2. お金を知る
3. お金を稼ぐ・使う
4. お金を貯める・増やす・借りる
5. 税金と社会保険・民間保険
6. ライフプランニングと資金計画（1）
7. ライフプランニングと資金計画（2）
8. リスク管理（1）
9. リスク管理（2）
10. 金融資産運用（1）
11. 金融資産運用（2）
12. タックスプランニング（1）
13. タックスプランニング（2）
14. 相続・事業継承（1）
15. 相続・事業継承（2）
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

各回の授業の最後に予習内容を示す。授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、理解度を確認するために、確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験 40%、確認テスト 40%、レポート 20%、いずれも採点后に返却する

教科書

必要に応じ、レジュメや資料を配布する。

参考文献

オフィス海『史上最強のFP3級テキスト』ナツメ社

キャリア教養特講

概要

人間は、全生涯を通して限りなく「発達」する力を有している、と考えられている。「子どもから大人へ」というプロセスに加え、「人間は、そういったイメージをも超えた成長を獲得し、前進を続ける存在である」という希望に満ちた多くの事実が認識されるようになったことから、「生涯発達心理学」という分野が成立した。この学術的知見を学ぶことは、人生を「より明るく、より力強い歩み」にする助けになるはずである。本学がカナダにルーツを持つことから、「赤毛のアン」を生涯発達が描かれたひとつの物語として味わいながら、講義を行う。発達心理学の内容としては、児童期以降を扱う。

| | |
|---------|------------|
| 担当教員 | 築田 美抄 |
| 授業形態 | |
| 学期 | 後期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 2 |

目標

1. 「赤毛のアン」に描かれているアンの成長を発達心理学の理論に照らし合わせてみることにより、専門的知識を身近なものとして身につける。
2. アンを取り巻く大人の登場人物にも注目し、成人期から高齢期の発達についても理解を深める。
3. 「発達」という概念に対する「自分なりの価値観や考え」を持つことにより、物事に積極的に挑戦する姿勢を養う。
4. カナダを代表する小説として世界中で愛読されている「赤毛のアン」に親しむことにより、カナダにルーツを持つ桜の聖母の学生として、カナダへの興味・関心を高める。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 「赤毛のアン」(児童期/成人期～高齢期)
3. 「赤毛のアン」(児童期/成人期～高齢期)
4. 「赤毛のアン」(児童期/成人期～高齢期)
5. 「赤毛のアン」(児童期/成人期～高齢期)
6. 「赤毛のアン」(児童期/成人期～高齢期)
7. 発達心理学の理論
8. 発達心理学の理論
9. 「赤毛のアン」(青年期の始まり)
10. 「赤毛のアン」(青年期の始まり)
11. 「赤毛のアン」(青年期の始まり)
12. 発達心理学の理論
13. 発達心理学の理論
14. 「心」の「発達」はどこへ向かうのか
15. 「心」の「発達」はどこへ向かうのか

準備学習(予習・復習等)

各回とも、予習として、テキストの指定された範囲を読んで授業に参加すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート
レポートの返却については掲示で連絡する。

教科書

モンゴメリ・村岡花子訳 『赤毛のアン』新潮文庫 2008
 " 『アンの青春』新潮文庫 2008
 " 『アンの愛情』新潮文庫 2008

参考文献

『Anne of Green Gables』、『Anne of Avonlea』、『Anne of The Island』
 以上の原書については、ペーパーバックで入手できるが、本によっては英字が見づらかったりするので注意が必要。しかし、原書の必要箇所は講義時にプリントして配布するので、必ずしも購入する必要はない。

インターンシップ

概要

本講義は事前講義とインターンシップ先での実習及び日報等の書類作成、お礼状送付等の事後作業等の全てを实践することが必須となる。実習内容は、インターンシップ先の業務内容等により異なりますので、実習先の指示に従うこと。

【注意1】本講義の実習として認められるには、学校から認められた実習先において5日間以上の実習をすることが単位認定の最低条件となる。*1日につき6時間以上

【注意2】インターンシップ選考書類等の文書を決められた期限内及び様式で提出することが履修条件となる

【注意3】実習ではビジネスの現場に相応しい身だしなみを求める(茶髪等は控えること)

| | |
|---------|-------------|
| 担当教員 | 元井貴子 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学期 | 前期 |
| 必修・選択の別 | 選択 |
| 対象学生 | キャリア教養学科1年生 |
| 時間数 | 90分×7.5回 |
| 単位数 | 1 |

目標

実習を通じて「働くこと」を深く理解できる。
現在のスキルとインターンシップ先の要求スキルとの違いを知ることができる。
社会人として求められること(時間や期限等)を厳守することができる。

各回の内容

1. <事前講義>インターンシップ実施に向けて
2. <事前講義>ビジネスシーンに相応しい身だしなみの実践
3. <事前講義>インターンシップ先企業団体の研究
4. <事前講義>インターンシップ先の検討と絞り込み
5. <事前講義>選考書類等の作成の完成と提出
6. <インターンシップの実施>合計5日以上(1日6時間以上/合計30時間以上)
7. <インターンシップ実施中>日報の作成と企業側確認
8. <事後作業>お礼状の作成と送付

準備学習(予習・復習等)

- <実施前>自己の興味・希望を把握し、選考書類を作成する
- <実施中>企業内の業務を通じた経験と日報作成
- <実施後>お礼状の作成・郵送、日報の提出

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。*学則第24条

評価方法

- インターンシップ日報:60%(提出なき場合は、再履修)
- インターンシップ先へのお礼状等の文書:10%(提出なき場合は、再履修)
- インターンシップ先からの評価:30%
- *5日以上のインターンシップ実績がない場合は、再履修
- *インターンシップ選考書類等が決められた期限内に提出されない場合には再履修

教科書

特になし、都度資料を配布する。

参考文献

都度、紹介する。